



日本臨床麻酔学会第44回大会
ランチョンセミナー12

Baxter

デスフルランを用いた 美しい覚醒と抜管

2024年 **11月22日** **金** 12:30~13:20

第5会場 (京王プラザホテル 南館 4F 扇)

座長

外山 裕章 先生

山形大学医学部附属病院 麻酔科

演者

新山 幸俊 先生

秋田大学医学部附属病院 麻酔科

日本臨床麻酔学会第44回大会HP
<https://www.congre.co.jp/jsca2024/>



- 開催日当日に整理券の配布がございます。
配布場所は大会HPに掲載予定です。

共催：日本臨床麻酔学会第44回大会／バクスター・ジャパン株式会社

問い合わせ先：バクスター・ジャパン株式会社 ホスピタルプロダクト事業部 マーケティング部 TEL：03-4567-1400(大代表)

JP-PH49-240054 V1.0 [2024.09]

デスフルランを用いた 美しい覚醒と抜管

演者

新山 幸俊 先生

秋田大学医学部附属病院 麻酔科

周術期における麻酔管理のゴールは「術後」ですが、手術麻酔のゴールは「覚醒と抜管」です。覚醒と抜管の場面では、手術侵襲が加えられたうえに気道デバイスが留置された状態の患者を麻酔から回復させなければならないため、その難易度は導入と比較して高いと考えられます。また、覚醒と抜管の際には、ときに強い咳嗽や体動が生じますが、これらは呼吸・循環動態を大きく変動させ、手術のアウトカムや患者のももとの合併症を悪化させる可能性があります。何よりも安全性が優先されることはもちろんですが、われわれは、①迅速でクリアな覚醒、②安定した呼吸・循環動態、③少ない咳嗽と体動、というワンランク上の質の高い「美しい覚醒と抜管」を目指すべきではないでしょうか。「美しい覚醒と抜管」を実践するためには、麻酔法の選択から術中管理までのすべてを考慮しなければならず、麻酔科医としての総合力が試されます。

この数年、吸入麻酔薬デスフルランが環境に与える悪影響がクローズアップされています。しかし、最近では、その影響の大きさを疑問視する報告も散見されており、改めてその正当性が検証されつつあります。覚醒と抜管の場面において、デスフルランには利点があります。本セミナーでは、大いに私見に満ちた「デスフルランを用いた麻酔からの安全で美しい覚醒と抜管」について解説します。